

第47回 神奈川県立霧が丘高等学校 入学式 校長式辞

春らしい爽やかな風と柔らかい日差しが感じられる穏やかな陽気となりました。
ただいま、入学を許可いたしました339名の新入生の皆さん、おはようございます。

そして、ご入学おめでとうございます。霧が丘高等学校は、新入生の皆さんの入学を心から歓迎します。皆さんの入学を歓迎するかのよう、前庭のチューリップも美しく咲いています。皆さんが着ているのは、昨年度からモデルチェンジした新しい制服です。新しい制服の感想はいかがでしょうか。これから3年間、お世話になると思います。どうか大切に着てください。

さて、本来であれば、多くのご来賓や保護者の皆様方にお集まりいただき、皆さんのご入学をお祝いする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまな感染症防止対策を講じた上での実施となりました。とりわけ、保護者の方々の参加をご遠慮いただかなければならなかったことは大変残念であり、申し訳なく感じています。

また、マスクの着用や間隔を空けてご着席いただいています。窓も開けて換気をよくしています。どうか、これらのことにご理解とご協力をよろしくお願いします。

今日は、皆さんのご入学に際し、二つのことについて話をさせていただきます。

まず一つめは、皆さんが中学校最終学年であった昨年度、感染症の拡大防止で発令された「緊急事態宣言」を受け、学校は臨時休業となり、学校での教育活動ができなくなりました。その後、再開されたとはいえ、楽しみにされていた修学旅行や学校行事の中止や縮小、そしてさしせまる自らの進路を決定していくことと高校受検に対する不安。県立高校の出願や試験の方法に変更はないのか、合格発表はどうなるのか等、皆さんは大変な思いで、中学3年生を過ごされたことと思います。

このような状況の中、受検され合格された皆さんに改めて祝意と敬意を表します。お疲れ様でした。そして、おめでとうございます。

高校3年間は、長いようであつという間に過ぎます。一日一日を大切に過ごされ、霧が丘高等学校で大いに活躍してください。

高校野球は、昨年夏の大会が中止されました。甲子園をめざしていた球児に対し、監督さんが伝えた言葉があります。

「今後の人生、君たちには、カッコいい人間でいてもらいたい。

カッコいい人間というのは、裏表がない人間。

どこで誰に見られても恥ずかしくない人間。

どこに行っても、何があっても、一生懸命にやる人間。

そして、誰からも応援される人間。

それが一番カッコいい。

顔、形じゃない。

カッコよさというのは、人間の内側から出てくる。

どうか、そういう人間になってほしい。」

二つめです。

本校は、インクルーシブ教育実践推進校だということです。一昨年度より本校を含め、県立高校 14 校で取組がはじまりました。この取組の最大の意義は、「障害のあるなしにかかわらず、すべての生徒ができるだけ同じ場所で共に学ぶことにより、豊かな人間性や社会性を育み、将来の『共生社会』の実現につなげていくことです。」

このインクルーシブ教育を推進していく上で、何よりも大切なことは、この取組の意義を一人ひとりが、しっかりと理解することです。

理解がしっかりとできれば、そこに差別や偏見などといった問題は生まれるはずはありません。

意義をしっかりと理解した上で、高校生活の学習活動や学校行事、部活動等さまざまな場面において、それぞれの個性を尊重し、認め合い、支え合う心を持つことです。

それができれば、誰もが生き生きと力を発揮し、安心して学校生活を送ることができる霧高文化を創りあげることができます。

今年度から、相手の名前を呼ぶ時は、呼び捨てではなく「さん付け」で呼び合うことにしました。ささやかな一歩ですが、生徒皆さんの人権を尊重する、個を大切にするという意味を込めて実施していきます。呼び捨て呼称に慣れている人にとっては違和感があるかもしれませんが、大丈夫です。すぐに慣れます。「さん付け」で呼び合うのが当たり前だと考えてください。

新入生の皆さん、今日から霧が丘高等学校が皆さんの母校になります。どうかこれからこの学校にプライドを持ち、堂々と前に進んでください。そして何事にも失敗を恐れず、挑戦し、自らの手によって未来を切り拓いてください。

最後になりますが、保護者の皆さま方に申し上げます。お子様の高校受検に際しては、コロナ禍もあり、多くの不安を抱えられていたこととお察しします。大変お疲れ様でした。この度のお子様のご入学を心より祝福申し上げます。

今後、三年間のPTA活動等、これから学校へのさまざまな面で、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

第47期生のこれからの輝かしいご活躍を祈念し、私からの式辞とさせていただきます。

令和3年4月7日

神奈川県立霧が丘高等学校長 内田 勝久